

# 平成21年度 事業報告書

財団法人日本ハンドボール協会

## 1. 普及指導に関する事業

### 1) 普及関係

#### (1) 少年チーム活性化推進ブロック会議

近畿	: 8月9日(日)長浜	関東	: 12月12日(土)守谷
四国	: 9月5日(土)香川総体	九州	: 12月25日(金)宮崎
東北	: 2月20日(土)東根		
北信越	: 8月8日(土)福井	中国	: 1月23日(土)総社
東海	: 10月31日(土)羽島		

- ・少年チーム活性化の方策についての情報交換

#### (2) 小学生専門委員会

##### ① 第1回小学生専門委員会 5月10日(日)事務局

- (1) 第23回全国小学生大会について
- (2) J級指導者講習会について
- (3) ブロック委員会の開催について
- (4) 各種調査について
- (5) (財)大崎スポーツ事業研究助成財団補助による事業展開について

##### ② 第2回小学生専門委員会 7月28日(火)京田辺市

- ・各種小学生大会交流会実施の基本的な考え方について
- ・5月からの少年チーム実態調査の報告(説明資料有り)
- ・J級指導者講習会について実施促進
- ・日韓小学生交流会について

#### (3) 中学生専門委員会

##### ① 第1回中学生委員会 8月21日(金)宮崎県総合体育館

- ・個人登録の進捗状況について
- ・次回大会の実施について
- ・第5回春の全国中学生ハンドボール選手権大会について

##### ② 第2回中学生専門委員会 12月24日(木)名古屋市 枇杷島スポーツセンター

- ・少年期の体力作りDVD作成について
- ・第18回大会の大会運営について(愛知県)

#### (4) 小学生指導要領対策

##### ① 文部科学省訪問 : 4月17日(金)文部科学省スポーツ・青少年局

##### ② 第1回学校体育検討専門委員会 4月18日(土)事務局

- ・第12回研究集会実施案検討  
講師依頼(文部科学省調査官等)

- ・委託校選定について

##### ③ 小委員会(打ち合わせ) 8月4日(火) 私立大成高校

##### ④ 8月5日(水)・6日(木) 私立大成高校

- ・授業発表
- ・実技研修と講義

#### (5) ビーチハンドボール専門委員会

##### ① 第8回ワールドゲームズ高雄大会

- 7月18日(土)～20日(月) 女子代表チーム 7位
- ②第11回全日本ビーチハンドボール選手権大会 8月29日(土)、30日(日)  
千葉県・南房総市 審判講習会、指導
- ③ビーチハンドボール普及推進会議 10月28日(水) 稲沢市総合体育館  
今後の日本協会の姿勢
- ・当面国内の普及発展に努める。
  - ・国際大会・国内大会への取り組みについては早急に整理する。

#### (6) マスターズ専門委員会

- ・第1回中央委員会 6月28日(日)
  - ① 大会参加状況について
  - ② 大会係割り当て
- ③第17回全日本ハンドボールマスターズ大会 7月31日(金)～8月2日(日)  
豊田市総合体育館(スカイホール) 他  
参加チーム 男子51・女子20 合計71チーム
- ・第2回マスターズ専門委員会 2月14日(日)12:30～15:00  
山梨県甲州市 塩山体育館
  - ① 平成22年度第18回全日本マスターズ 大会要項(案)検討
  - ② 第20回大会記念行事、資金集めについて
  - ③ 各ブロック報告

## 2) 指導関係

### 指導委員会

- (1) 日体協公認スポーツ指導員養成実施都県 東京、富山、岡山
- (2) IHF コーチレフェリーシンポジウム 7月28日(火)～31日(金) チュニジア  
植村審判長、栗山女子日本代表コーチの両氏が参加
- (3) 小学生金銀銅DVD・解説書 作製、配布 8月3日(月)
- (4) 200903 都道府県協会指導委員選出・委員会組織の整備 11月30日(月)
- (5) 全国指導委員会 1月31日(日)ANTC
  - ・各県指導委員とNTSとの関わりについて
  - ・公認指導員の義務研修について
  - ・コーチレフェリーシンポジウム2009について
- (6) 全国競技別講師研修会 2月20日(土)、21日(日) ANTC 参加者 23名
- (7) コーチ・レフェリーシンポジウム2009 3月20日(土)、21日(日) 日本青年館
- (8) J級講習会、開催県 千葉、神奈川、岩手、愛知、茨城
  - ・J級指導員申請手続きの確認について

## 3) 競技者育成技術委員会

競技者育成技術委員会開催第1回～9回

- ・NTSとの連携、各ブロックの実態把握
- ・日本のハンドボールの姿検討・・・テクニカルグループによる検討会

## 2. 競技運営に関する事業

### 1) 主要大会の管理・運営 (斜体は国際大会)

月	大会名	開催日程	開催地	結果
4月	第5回東アジアクラブ選手権(男女)	4/25-27	中国・蘇州、常州	男子:1;斗山 2;大同特殊鋼 3;Beijing 4;Jiangsu 女子:1;碧山建設 2;Anhui 3;オムロン 4;Jiangsu 5;Shangdong
5月	日韓代表国際交流定期戦2009	5/6	日本・川崎市	男子:1;韓国 2;日本 女子:1;日本 2;韓国
7月	第3回女子ユースアジア選手権(2010WC&ユースオリンピックアジア予選)	7/4-9	ヨルダン・アンマン	女子:1;韓国 2;日本 3;カタール 4;タイ 5;ヨルダン
	2010 男子ユースオリンピックアジア予選	7/4-13	韓国・ソウル	1;韓国 2;日本 3;サウジアラビア 4;UAE 5;チャイニーズタイペイ 6;タイ 7;カタール 8;カタール
	高松宮記念第50回全日本実業団選手権	7/8-12	枇杷島スポーツセンター	男子:1;大同特殊鋼 2;大崎電気 3;湧永製薬 女子:1;オムロン 2;北國銀行 3;ソニーセミコンダクタ九州
	ワールドゲームズ2009	7/18-20	チャイニーズタイペイ・高雄	女子:1;イタリア 2;クロアチア 3;ブラジル 4;マドニエ 5;チャイニーズタイペイ 6;ウクライナ 7;日本 8;タイ
	第29回全国クラブ選手権西地区	7/18-20	愛媛県総合運動公園体育館	男子:1;PF 須磨東クラブ 2;総社クラブ 3;チームフォース 女子:1;HC 岡山 2;御座候 3;ninfa・kagoshima
	第29回全国クラブ選手権東地区	7/25-26	本宮市総合体育館他	男子:1;渡辺組 2;FST 3;法政二 OB・学石クラブ 女子:1;福島クラブ 2;REDS 3;かぶら女子・SAKURA
	第14回ヒロシマ国際大会	7/23-26	日本・広島市	1;日本代表 2;JHL 選抜 3;中国山東省 4;台湾代表
	第22回全国小学生大会	7/27-8/1	京田辺市田辺中央体育館他	男子:1;下郡少年団 2;木田ブルーロック 3;上庄クラブ 女子:1;仏生寺少年団 2;宮城小学校 3;松井ヶ丘小学校
第17回全日本マスターズ大会	7/31-8/2	カイトール豊田他	男子:1;AZZURRO 2;GG'S 3;オールフェイス 女子:1;富山エンジェルス 2;風見鶏ファミリー 3;小松クラブ	
8月	高松宮記念杯第60回全日本高校選手権大会	8/2-7	京都府立山城総合体育館他	男子:1;興南 2;北陸 3;愛知、祐誠 女子:1;四天王寺 2;名経大市邨 3;洛北 4;夙川学院
	第10回女子ジュニアアジア選手権大会	8/13-18	タイ・バンコック	1;韓国 2;日本 3;中国 4;タイ 5;香港
	第14回ジャパノープントナメント千葉国体リハーサル大会	8/8-11	国府台市民体育館他	男子:1;三重クラブ 2;FOG 3;B.I.C 女子:1;香川銀行 T・H 2;HC.TSUKUBA 3;HC 高山
	東日本学生選手権大会	8/11-13	北海道立総合体育センターきたえる	男子:A;関東学院 B;東北福祉 C;大東文化 D;法政大 女子:a;富士大 b;早稲田
	第36回全国高等専門学校選手権大会	8/21,22	八代市総合体育館他	1;屋代高専 2;函館高専 3;北九州高専・宇部高専

	第38回全国中学校大会	8/23-25	宮崎市総合体育館他	男子1:はとり中 2:明倫中 3:三松中・岩国中 女子1:光陽中 2:大住中 3:氷見北部中・神森中
	第17回日韓中シニア交流競技大会	8/25-27	韓国・木浦	男子:1;日本 2;韓国 3;開催地 4;中国 女子:1;韓国 2;日本 3;中国 4;開催地
	西日本学生選手権	8/26-30	福岡市民体育館他	男子:1;大体大 2;中京大 3;大経大・関学大 女子:1;大教大 2;大体大 3;武庫川・福岡大
	第11回全日本ビーチハンドボール選手権大会	8/29,30	富浦町原岡海水浴場	男子:1:FST 2;立命館 3;あふた〜ず 女子:1;SHINE 2;愛媛みかん 3;B・H・C
9月	第34回日本リーグ・レギュラーシーズン	9/5-3/7	各地	男子:1;大同特殊鋼 2;トヨタ車体 3;湧永製薬 4;トヨタ紡織九州 女子:1, 北國銀行 2, オムロン 3, ソニセミコンダクタ九州
	第13回日韓スポーツ交流(派遣/女子)	9/16-22	韓国・京畿道	
	第13回日韓スポーツ交流(派遣/女子)	9/25-30	ANTC	
10月	第64回国民体育大会	10/2-6	新潟県柏崎市総合体育館他	成年男子:1;広島県 2;愛知県 3;佐賀県 4;埼玉県 成年女子:1;熊本県 2;鹿児島県 3;広島県 4;茨城県 少年男子:1;福井県 2;山口県 3;宮崎県 4;秋田県 少年女子:1;京都府 2;大阪府 3;香川県 4;愛知県
11月	高松宮記念杯男子第52回女子第45回全日本学生選手権大会	11/7-11	いしかわ総合スポーツセンター	男子:1;日体大 2;筑波大 3;東海大、日本大 女子:1;東女体大 2;大教大 3;大体大、筑波大
12月	第19回女子世界選手権	12/5-20	中国・蘇州他	1;ロシア 2;フランス 3;ノルウェー 4;スペイン 5;デンマーク 6;韓国 7;ドイツ 8;ルーマニア 9;ハンガリー 10;オーストリア 11;アンゴラ 12;中国 13;スウェーデン 14;チュニジア 15;ブラジル 16;日本 18;コートジボアール 19;アルゼンチン 20;コンゴ 21;タイ 22;カザフスタン 23;チリ 24;オーストラリア
	第61回全日本総合選手権大会(男子)	12/16-20	駒沢体育館	男子:1;大同特殊鋼 2;湧永製薬 3;トヨタ車体、大崎電気
	第61回全日本総合選手権大会(女子)	12/24-27	高松市香川総合体育館	女子:1; オムロン 2; 北國銀行 3;広島メイプルレッズ、ソニセミコンダクタ九州、
	第18回JOCシニアオリンピックカップ	12/25-28	枇杷島スポーツセンター他	男子:1; 名古屋市 2;沖縄県 3;熊本県、福井県 女子:1;福井県 2;富山県 3;東京都、山口県
2月	第14回男子アジア選手権(2011WC予選)	2/6-19	レバノン・ベイルート	1;韓国 2;バーレーン 3;日本 4;サウジアラビア 5;カタール 6;シリア 7;イラン 8;レバノン 9;中国 10;イラク 11;UAE 12;ヨルダン
	全日本実業団チャレンジ2010	2/12-14	くろしおアリーナ	1; 八光自動車工業 2;HC 愛媛 Armada 3;高知クラブ 4;金沢市役所

3 月	第34回日本リーグプレーオフ	3/20-21	東京体育館	男子:1;大同特殊鋼 2;トヨタ車体 3;トヨタ紡織九州、 湧永製薬 女子:1, ソニセミコンダクタ九州 2,北國銀行 3, オムロン
	第33回全国高等学校選抜大会	3/25-30	花巻市総合体育館他	男子:1; 香川中央 2;愛知 3;岩国工業、不來方 女子:1; 四天王寺 2;華陵 3; 洛北、文大杉並
	第5回春の全国中学生選手権大会	3/26-29	氷見市ふれあいスポーツセンター他	男子:1;大体大附属 2;日吉 3;岩国、ウァルト岐阜 女子:1;平針 2;西中原 3;魚住東、光陽

## 2) その他の事業

- ・ 社会人連盟設立準備
- ・ HP上に大会運営マニュアルを掲載
- ・ 平成21年度マッチバイザーの任務他各種通達
- ・ 平成21年度チーム・選手・チーム役員登録業務
- ・ 競技運営連絡協議会の開催（東京）
- ・ 国民体育大会正規視察（長崎県、和歌山県）
- ・ 直接大会を管理した(ジャパンオープン、国民体育大会、全日本総合選手権、春の中学生大会)
- ・ 競技用具向上連絡協議会の開催

## 3. 国際に関する事業

### 1) 日本ナショナルチーム国際大会に関する事業

日程	カテゴリー	大会名称	開催地
4月	男女リーグ	第6回東アジアクラブ選手権	中国(蘇州・常州)
5月	男・女代表	日韓代表国際交流定期戦2009	日本(川崎)
	仲田参事	AHF(PRC)委員会	アラブ首長国連邦(ドバイ)
6月	渡邊会長 市原副会長 多田副会長	第32回IHF総会	エジプト(カイロ)
7月	女子ユース	第3回女子ユースアジア選手権	ヨルダン(アンマン)
	男子ユース TD/仲田参事	2010男子ユースオリンピックアジア予選	韓国
	女子ビーチ	ワールドゲームズ2009	チャイニーズタイペイ(高雄)
	女子代表	第14回ヒロシマ国際	広島
	男女小学生	日韓小学生親善交流会	京田辺、氷見
	植村常務理事・ 栗山委員	IHFコーチレフェリーシンポジウム	チュニジア(チュニス)
8月	女子ジュニア	第10回女子ジュニアアジア選手権	タイ(バンコク)
	審判/池淵・檜崎	第17回男子ジュニア世界選手権	エジプト(カイロ)
	男女高校生	第17回日韓中ジュニア交流大会	韓国

	男子代表	ヨーロッパ遠征	フランス・デンマーク
9月	女子U-16	第13回日韓スポーツ交流(派遣)	韓国
	女子U-16	第13回日韓スポーツ交流(受入)	東京
	川上専務理事	ロシア協会打合せ	ロシア(モスクワ)
12月	女子代表	第19回女子世界選手権	中国(蘇州)
	渡邊会長	IHF 常任理事会	中国(南京)
1月	男子代表	ロシア遠征	ロシア(モスクワ)
	男子代表	フランス遠征	フランス(パリ)
2月	男子代表	第14回男子アジア選手権	レバノン(ベイルート)
	TD/後藤 登 審判/池淵・檜崎		

以上の大会への参加申請手続き・参加費等の精算・渡航手続きなど事務全般

## 2) 国際会議に関する事業

### (1)IHF 関係

- ・IHF 総会役員選挙に関する対応
- ・IHF 総会に提出する動議内容について、機関決定すること
- ・IHF と AHF に対しての諸連絡および韓国との協力連絡強化
- ・各種大会や役員・レフェリー派遣業務の連絡調整全般

\*IHF ニュース翻訳

### (2)AHF 関係

- ・AHF と日本協会との関係強化
- ・各カテゴリーのアジア選手権開催について、日本参加の可否調整連絡並びに現地へ確認

\*AHF に関する諸連絡

\*テクニカルデレゲート・審判・派遣などに関する連絡

\*AHF 会議議題・議事録の翻訳

### (3)EAHF 関係

- ・4月 EAHF 会議(韓国)

\*EAHF に関する連絡

## 3)その他の事業

### (1)国際移籍等に関する連絡(移動証明書の発行など)

佐久川ひとみ: DAEGU METROPOLITAN CITY HALL(韓国)へ移籍

LEE JAE WOO: AL-AHLI CLUB(カタール)へ移籍

仲井友崇: SG LEUTERSHAUSEN(ドイツ)より移籍

イシグロマサユキ: SC DHFK LEIPZIG(ドイツ)より移籍

吉田耕平: CHOCOLATE BOYS(エストニア)より移籍

富田恭介: HC KOROSA(韓国)へ移籍

宮崎大輔: BM. ALCOBENDAS(スペイン)へ移籍

ヌガ カズヤ: SV CONCORDIA DELITZSCH(ドイツ)へ移籍

ヨネクラ アキヒロ: SV CONCORDIA DELITZSCH(ドイツ)へ移籍  
クシダ リョウスケ: ESV LOK PIRNA(ドイツ)より移籍  
富田恭介: HC KOROSA(韓国)より移籍

## (2) 翻訳業務

大会要綱の翻訳  
海外大会情報の翻訳及び掲示

## 4. 競技規則(審判)に関する事業

### 【基本方針】の報告

#### 1) トップレフェリーの資質の向上

トップレフェリーの高齢化にともない次代を担う若手レフェリーの育成は必至である。  
JHA レフェリーコース等の環境整備を早急に取り組み、将来性ある若手レフェリーの育成に務めた。特に国内最高峰の日本リーグを担当するレフェリーを一堂に集め、幅広い分野の講習および実技を行った。出席者の共通認識も得られ有意義な講習会であった。  
国際審判員の池淵・檜崎は、IHF および AHF からの大会ノミネートがあった。他のレフェリーは昨年度に続きノミネートがない。現在、IHF のヤングレフェリー採用から年齢制限により IHF 登録されているペアは、池淵・檜崎ペア、福島・家永ペアの 2 ペアである。  
大陸レフェリーコース開催について、AHF との連絡を密に取りながら大陸レフェリーコース開催実現に取り組みたい。

#### 2) 競技規則の正しい運用

平成 21 年度審判員の目標である、  
(ア) 防御側プレイヤーの権利の保障  
(イ) アドバンテージ・ルールの遵守  
(ウ) レフェリーの動きと位置取り  
の 3 本柱は各全国大会での審判会議の中で研修会を持ち、審判員の共通認識を高めた。各全国大会で審判会議の一環として実施している「ルールテスト」は審判員に定着してきており、平均的な成果を得られるようになった。ブロック大会レベルにおいても実施されるようになった。  
YRP の実質的な運用のひとつに、NTS との連携を試み課題は残るものの次につながる成果をあげることができた。ヤングレフェリー育成と合わせて課題は山積されている。

#### 3) AHF・IHF レフェリー講習会の開催準備

国際レフェリー育成が迫られているなか、大陸レフェリーコースの参加および開催準備に務めたが各カテゴリーアジア予選等の大会と AHF との日程調整が上手くいかず難航している。また、国外での大陸レフェリーコースも同様、職場との日程が合わず参加できない厳しい状況であった。将来的には、国際レフェリーを専門的に担当するレフェリーの育成と職場提供等を



考えていく斬新的な取り組みが必要である。

### 【重点施策】について

1) トップレフェリー研修会の期日について、6月に開催されたJHL担当レフェリー研修会を当てた。しかし、全国大会を担当するレフェリーすべてが網羅された訳ではなく今後、参加対象者と講習会の内容も検討する必要がある。また、この研修会はレフェリーだけのものではなく、トレーナー、選手も参加可能であることを広めたい。

### 2) YRP(ヤングレフェリープロジェクト)の充実

徐々にYRPへの意識は高まってきてはいるものの、まだ十分とはいえない。引き続き積極的な働きかけとレフェリーの発掘を考えていきたい。また、平成21年度からNTSの中央講習会においてもヤングレフェリーが参加した。選手強化およびレフェリー強化が同レベルで一体感を持たせやっていきたい。

### 3) 継続行事の実施

(1) 平成21年度登録公認審判員数 2,773名(前年度-99名)

#### (2) 公認審判員上級審査結果

◇ A級審査は、全国クラブ選手権東地区をモデルに、B級は北地区(宮城県)・東地区(茨城県)・中地区(三重県)・西地区(沖縄県)の5地区にて実施。結果は下記のとおり。

	A級	B級
審査申請者	30名	53名
書類不備者	3名	0名
欠席者	0名	0名
筆記不合格者	0名	3名
実技不合格者	2名	10名
体力不合格者	1名	0名
合格者数	24名	40名

#### ◇ レフェリーコース受験状況

前期 期日 8月15日(土)～17日(月)

モデル 長浜ドリーム大会

場所 滋賀県 長浜市

担当者 越田義昭 審査指導委員長、岸本光夫 審査指導委員、植村 彰 審判部長、  
家永昌樹 国際審判員

後期 期日 3月19日(金)～21日(日)

モデル 大学新人チーム対抗戦

場所 北海道函館市 函館大学キャンパス

担当者 越田義昭 審査指導委員長、伊藤宏幸 審査指導委員、藤井俊朗 審査指導委員、小笠原久郎 国際審判員

受講生 8名 (國學院大學2名 南山大1名 岐阜院大1名 日本大1名 成蹊大  
1名 愛知県立知立東高女子2名)

B級認定者 4名

不合格 4名

◇ JHA 実業団レフェリーコース研修会

期 日 2月11日(木)～13日(土)

会 場 高知県

受講生 湧永製薬監督 1名 大崎電気監督 1名 (B級認定)  
北陸電力ペア、豊田合成ペア

担当者 越田義昭 審査指導委員長、藤井俊朗 審査指導委員

(3) 審判員評価

- ・全日本高等学校選手権大会参加審判員評価 (京都府) 審判審査指導委員3名派遣
- ・全日本総合選手権男子大会審判員審査 (東京都) 審判審査指導委員3名派遣
- ・全日本総合選手権女子大会審判員審査 (香川県) 審判審査指導委員全員派遣

(4) 国際審判員の登録

・IHF 登録審判員

家永昌樹・福島亮一

池淵智一・檜崎 潔

- ・GRTP 登録 本田昭太・田淵元雄

◇ 国際試合と海外派遣

期 日 8月 6日～8月19日

場 所 エジプト

大 会 男子ジュニア世界選手権

指 名 池淵智一・檜崎 潔

- \* 家永昌樹・福島亮一ペアにはAHFよりアジア予選のノミネートがあった。しかし、公務の都合でキャンセルをした。

IHFに登録される唯一の国際審判員である福島氏、池淵氏、檜崎氏は教育職にあり、長期休業中以外の国際大会は職場の理解を得ることが非常に厳しくなっている。今後、ノミネートに応えられる国際審判員の育成が必要がある。でなければ、アジアの中でも割当が無くなってしまいう可能性が出てくる。

(5) 会 議

- ・第1回 審判審査指導委員会

期 日 10月17日(土)、18日(日)

場 所 東京品川区五反田 東興ホテル

内 容 A・B級受験状況および審査結果の検討

レフェリーコース前期の受験状況報告  
 総合選手権大会審判員のノミネート  
 審判指導内容の検討と資料作り

- ・ 第2回 審判審査指導委員会  
 期 日 12月26日(土)  
 場 所 香川県高松市 オークラホテルタカマツ  
 内 容 2010年競技規則改正について  
 ① 改正内容確認および検討  
 ② 改正内容の伝達方法について
  
- ・ 第3回 審判審査指導委員会  
 期 日 1月22日(金)  
 場 所 国立スポーツ科学センター  
 内 容 平成22年度A・B級受験申請書類審査  
 審判部合同委員会議準備
  
- ・ 審判部合同会議  
 期 日 1月23日(土)、24日(日)  
 場 所 国立スポーツ科学センター  
 参加者 審判部長、競技運営部長、審判審査指導委員会、各ブロック審判長、各連盟審判長、競技規則研究専門委員長、審判国際専門委員長、日本リーグ審判部長、審判総務専門委員長および審判総務専門委員  
 内 容 ・平成21年度諸活動の総括  
 ・平成22年度活動の検討  
 ・競技規則改正点の解説

## 5. 競技力向上(強化)に関する事業

### 1) 国際大会・国際交流親善試合

チーム名	大会名	日 程	場 所	結 果
男子代表	日韓代表国際交流定期戦	5/6	神奈川県・川崎市	1;韓国 2;日本
女子代表				1;日本 2;韓国
女子 U-18	第3回女子ユースアジア選手権(WC2010予選兼 2010 ユースオリンピック予選)	7/4-7/9	ヨルダン・アンマン	1;韓国 2;日本 3;カザフスタン 4;タイ 5;ヨルダン
男子 U-19	2010男子ユースオリンピックアジア予選	7/4-7/13	韓国・ソウル	1;韓国 2;日本 3;サウジアラビア 4;UAE 5;チャイニーズタイペイ 6;タイ 7;カタール 8;カザフスタン
女子ビーチ	ワールドゲームズ2009	7/18-7/20	チャイニーズタイペイ・高雄	1;イタリア 2;クロアチア 3;ブラ

				ジル 4;マケドニア 5;チャイニーズタイペイ 6;ウクライナ 7;日本 8;タイ
女子代表	第14回ヒロシマ国際大会	7/23-7/26	日本・広島市	1;日本代表 2;JHL 選抜 3;中国山東省 4;台湾代表
U-20	第10回女子ジュニアアジア選手権(WC2010予選)	8/13-8/18	タイ・バンコック	1;韓国 2;日本 3;中国 4;タイ 5;香港
女子 U-16	第13回日韓スポーツ交流(派遣)	9/16-9/22	韓国・京畿道	
女子 U-16	第13回日韓スポーツ交流(受入)	9/25-9/30	東京都・ANTC	
女子代表	スペイン国際 2009	11/20-22	スペイン・マラガ	1;スペイン 2;日本 3;スロベニア 4;アンゴラ
女子代表	第19回女子世界選手権	12/5-12/20	中国・常州他	1;ロシア 2;フランス 3;ノルウェー 4;スペイン 5;デンマーク 6;韓国 7;ドイツ 8;ルーマニア 9;ハンガリー 10;オーストリア 11;アンゴラ 12;中国 13;スウェーデン 14;チュニジア 15;ブラジル 16;日本 18;コートジボアール 19;アルゼンチン 20;コンゴ 21;タイ 22;カザフスタン 23;チリ 24;オーストラリア
男子代表	第14回男子アジア選手権(2011WC予選)	2/6-2/19	レバノン・ベイルート	1;韓国 2;バーレーン 3;日本 4;サウジアラビア 5;カタール 6;シリア 7;イラン 8;レバノン 9;中国 10;イラク 11;UAE12;ヨルダン

## 2) 海外強化合宿

チーム名	事業名	日程	場所	参加人数計(役員、選手)
男子代表	ヨーロッパ遠征	8/7-8/23	フランス・デンマーク	25名(役員4名、選手21名)
女子代表	ヨーロッパ遠征	11/14-11/24	スペイン	22名(役員6名、選手16名)
男子代表	ヨーロッパ遠征	1/3-1/11	ロシア	19名(役員4名、選手15名)
男子代表	ヨーロッパ遠征	1/28-2/2	フランス	24名(役員7名、選手17名)

## 3) 国内強化合宿 (男女代表)

チーム名	場所	日程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子代表	第1回 ANTC	4/6-4/17	31名(役員5名、選手26名)	—	赤尾和彦
	第2回 ANTC	5/1-5/15	36名(役員6名、選手30名)	—	赤尾和彦
	第3回 ANTC	6/1-6/14	33名(役員5名、選手28名)	—	赤尾和彦

	第4回紋別	7/17-7/25	27名(役員5名、選手22名)		赤尾・市川
	第5回 ANTC	8/4-8/6	27名(役員4名、選手21名)		赤尾和彦
	第6回 ANTC (アカデミー合同)	10/10-10/13	21名(役員6名、選手15名)	—	赤尾和彦
	第7回 ANTC	11/15-11/18	29名(役員7名、選手22名)	—	赤尾・市川
	第8回 ANTC	12/15-12/30	29名(役員6名、選手23名)	—	赤尾・市川
	第9回 ANTC	1/23-1/27	32名(役員7名、選手25名)	—	赤尾・市川
女子代表	第1回 ANTC	4/2-4/10	24名(役員5名、選手19名)	—	高野内俊也
	第2回 ANTC	5/1-5/7	21名(役員5名、選手16名)	—	高野内俊也
	第3回熊本・広島	5/18-5/28	28名(役員5名、選手23名)	—	高野内俊也
	第4回石川	6/10-6/17	26名(役員5名、選手21名)	—	高野内俊也
	第5回熊本	7/17-7/22	26名(役員6名、選手20名)	—	高野内俊也

#### 4) 国内強化合宿 (男女ジュニア)

チーム名	場 所	日 程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子 U-19	ANTC	4/23-4/27	23名(役員3名、選手20名)	—	—
女子 U-18	ANTC	5/10-5/14	20名(役員4名、選手16名)	—	小西達也
男子 U-19	ANTC	5/14-5/18	19名(役員3名、選手16名)	—	—
女子 U-20	ANTC	5/29-6/2	28名(役員3名、選手25名)	—	—
女子 U-18	ANTC	6/21-6/27	19名(役員5名、選手14名)	有田 忍	小西達也
男子 U-19	ANTC	6/27-7/2	23名(役員3名、選手20名)	—	飯田純一郎
女子 U-20	ANTC	6/27-7/1	22名(役員3名、選手19名)	沖本信和	田中美季
男子 U-21	ANTC	7/1-7/5	22名(役員3名、選手19名)	—	—
女子 U-20	ANTC	8/6-8/11	19名(役員3名、選手16名)	沖本信和	田中美季
女子 U-16	ANTC	8/26-8/28	19名(役員3名、選手16名)	—	—

#### 5) ドクター・トレーナー帯同 (遠征・大会)

チーム名	遠征・大会名	日 程	場 所	ドクター	トレーナー
男子代表	日韓代表国際交流定期戦	5/6	日本・川崎市		赤尾和彦
女子代表	日韓代表国際交流定期戦	5/6	日本・川崎市		高野内俊也
女子 U-18	第3回女子ユースアジア予選	7/4-7/9	ヨルダン	有田 忍	小西達也
男子 U-19	ユースオリンピックアジア予選	7/4-7/13	韓国		飯田純一郎
女子ビーチ	ワールドゲームズ 2009	7/18-7/20	チャイニー ズタイペイ	沖本信和	
女子代表	第14回ヒロシマ国際	7/23-7/26	日本・広島市	宮本和彦	高野内俊也
男子代表	ヨーロッパ遠征	8/7-8/23	フランス・デ ンマーク		赤尾和彦
女子 U-20	第10回女子ジュニア選手権	8/13-8/18	タイ	沖本信和	田中美季
女子 U-16	第13回日韓スポーツ交流(派遣)	9/16-9/22	韓国・京畿道		嶋原暢子
女子 U-16	第13回日韓スポーツ交流(受入)	9/25-9/30	日本・ANTC		嶋原暢子
女子代表	ヨーロッパ遠征(スペイン国際)	11/14-11/24	スペイン	佐久間克彦	高野内俊也
女子代表	第19回女子世界選手権	12/5-12/20	中国・常州他	佐久間克彦	高野内俊也
男子代表	ヨーロッパ遠征	1/3-1/11	ロシア		赤尾和彦
男子代表	ヨーロッパ遠征	1/28-2/2	フランス		赤尾和彦
男子代表	第14回男子アジア選手権	2/6-2/19	レバノン	沖本信和	赤尾和彦

#### 6) NTS (ナショナルトレーニングシステム)

・ブロックトレーニング (9ブロック) の実施

小・中・高それぞれ男女約1,000名

- ・センタートレーニングの実施

中・高男女ブロック推薦各 50 名をナショナルスタッフで書類審査を実施し各 30 名程度を中心に、2010 年度 U16、U19 代表強化指定選手の選考を行った。

## 7) JOC ジュニアオリンピックカップ大会

男子優勝：名古屋市選抜 女子優勝：福井県選抜

オリンピック有望選手の選考

男子 齊藤 凌 (岩手県：花巻北中学校)

女子 永田 美香 (福井県：光陽中学校)

佐々木春乃 (富山県：堀川中学校)

## 8) 日本代表チーム

- ・平成 21 年度は女子 WC 大会、男子アジア WC 予選出場のチームを重点に予算配分した。
- ・海外、国内での国際試合や日本リーグチームとのトレーニング試合を実施した。
- ・少数精鋭&重点強化体制で ANTC を活用し着実な運営ができた。
- ・日本リーグチームとの連携強化を図りスタッフ間との情報を共有した強化ができた。

大会の成績は次のとおりであった。

### ・日韓代表国際交流定期戦

- ・男子は韓国優勝、女子は韓国に勝利 (カザフスタンで開催された北京オリンピック予選以来)

### ・第 19 回女子世界選手権 (常州他)

- ・16 位の成績、短期間に 9 試合という大会運営で戦う体力、闘争心が今後の課題として残った内容であった。

### ・第 14 回男子アジア選手権 兼 2011WC 予選 (レバノン)

- ・3 位の成績で世界選手権の切符を獲得。IHF の管理でスムーズに運営された。戦う体力強化が十二分に表現された試合内容であったが対韓国対策が急務

### ・第 14 回ヒロシマ国際大会

- ・日本代表、JHL 選抜、中国山東省、台湾代表でリーグ戦を行い日本代表が優勝
- ・ワールドゲームズビーチ大会 (チャイニーズタイペイ)
  - ・日本代表として正式に参加、8ヶ国中 7 位
  - 各国、正式に強化を図り参加していた、今後の事を考えるとビーチも日本代表として強化する必要性を感じた。

## 9) under 代表チーム

- ・年齢カテゴリー別の体制で NTS と連携して強化ができた。
- ・代表チームをはじめ under チームスタッフは、ナショナルスタッフチームとした
- ・カテゴリー強化合宿・NTS などによって指導育成した結果、次のとおりであった。
- ・第 10 回女子ジュニアアジア選手権 兼 2010WC 予選 2 位 WC 出場獲得
  - ・大変厳しい戦いであったが韓国に惜敗し 2 位で WC の切符を獲得できた。
  - 今後代表として活躍する選手達であるため、今後はアジアで必ず韓国に勝つ精神面

の強化の必要性を感じた。

**・第3回女子ユースアジア選手権 兼 2010WC予選 兼 2010 ユースオリンピック予選  
(ヨルダン) 2位 WC出場獲得**

- ・U-18のカテゴリーで1番強化しなければならない年代である。あるところまでは各強豪国と戦うことができるが最終的には体格の部分で敗退する従来の反省課題と変わっていない、国内での男子との試合等を含め体格面での強化策の必要性を感じた。

**・2010男子ユースオリンピックアジア予選(韓国) 2位**

- ・U-19カテゴリーは次期日本代表の大事なカテゴリーであるが短期間での強化では答えが出せなく、予選敗退とここ10数年世界の舞台に出場できていない。対外試合を含めた強化策を考える必要がある。

**・女子第13回日韓スポーツ交流**

- ・韓国に敗退、やはりこの年代から韓国に勝利するか、それに等しい試合内容でなければ上層部のカテゴリーの強化にも繋がらない。精神面等も含め全体的に徹底させる必要がある。韓国はスタッフも含めこの年代から勝負に対する執念が違う。日本での受け入れはNTCを使用。

**10) 分析活動および体力向上策**

- ・情報科学委員会活動として、国立スポーツ科学センターの強力なバックアップによって分析活動を実現。予算についても、大きな支援をいただいた。  
また、NTCのモデルとして競技団体毎の体力向上策の一環として、体力測定モデル化を推進した。

**11) ドーピング活動**

- ・国体・全日本学生選手権・日本リーグ、全日本総合で、ドーピングコントロール実施。

**12) JHA ジュニアアカデミー開校**

- ・アジアNO.1に返り咲くために各カテゴリーで韓国、中東に肉薄した内容の試合が大切である。  
そのためにもNTSで発掘された選手の中から特化して日本のエリート教育を実施し個人能力等スキルアップに努め、全国アカデミーキャラバンも実施し選手発掘にも努めた。  
男女アカデミー生から代表選手に選抜されアジア選手大会、世界選手権で活躍し徐々に成果が現れてきている。

**6. 機関誌発行に関する事業**

1)年9回の発行を行った。

1ヶ月平均発行部数 約4,900部(登録の中学校も通年配布となった)  
(年1回登録小学校へ無料配布 約250部)

2)広告協賛 14社(伊藤超短波も含む) 毎号掲載は13社

3)機関誌の内容を充実

- (1) 自らの取材による記事の掲載（全日本総合・プレーオフ・イカル・車椅子・NTS等）
- (2) 委員会の連載継続（医事・審判・コーティング研究会・学校体育等）
- (3) インターネット情報との密接な連携

## 7. 企画に関する事業

- 1) 各事業が実行計画に基づき確実に実行できるよう支援をした
- 2) 日韓定期戦の運営に関する課題の抽出をおこなった
- 3) JAPAN CUP 2010 TOKYO GAMES を企画した

## 8. 広報に関する事業

### 1) 広報

- ① 広報年間スケジュールに基づき活動を行った
  - ・ 定期記者発表（日本リーグ、日本リーグプレーオフ）
  - ・ 臨時記者発表（日韓定期戦、第14回男子アジアハンドボール選手権(2011年世界選手権予選)）
  - ・ プレスリリース(メールリリースも含め)80回  
（男女日本代表情報、各カテゴリー国際大会、国内大会他）
  - ・ ナショナルチームの情報公開
- ② インターネット発信(ホームページ)の充実を図った
- ③ マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ライター他）の取材調整を行った。143件
- ④ 東京記者クラブハンドボール分科会との意見交換を行った。
- ⑤ 大会写真撮影にカメラマンを6大会派遣

### 2) インターネット

- ① 日本協会ホームページの充実を図った。
  - ・ 情報発信のスピード化を推進した（大会結果速報用に掲示板を利用した）。
  - ・ 更新頻度の増加を図った。
- ② コンテンツ作成の効率化を図った
- ③ 北京五輪東京再予選での異常なアクセスを除くと、HP訪問数は継続的にアップしているが、伸び率については鈍化傾向にある。

## 9. 財務・会計に関する事業

平成21年度は、平成20年度に引き続き財政状況を取り巻く環境が経済的にも社会的にもまだまだ厳しい状況にあり、縮小均衡を前提に緊縮財政を組まなければならない状態であったが、収入面では、マーケティング収入、物品販売等が当初予算の目標額達成は出来なかったものの、JOC補助金、一般登録料、審判登録料の増収などにより予算額を若干上回る事が



出来た。支出面では、各事業の見直し、効率的な予算執行、補助金の効率的な運用により特別会計への繰入額が減り、一般会計の当期収支差額は当初予算ではマイナスで組んであったが、プラスにする事が出来た。

## 10. 日本リーグに関する事業

### 1)地域と共に発展する日本リーグを目指す。

- ・開催地責任者・GM 合同会議を開催し、地域活動で、北陸電力の取り組みを紹介。  
グループディスカッションで、21 年度開催地とチームが一体となり試合を盛り上げる方策を意見交換した。結果、各地での試合は独自性を出すことができ、開催地の取り組みが大きく変わってきた。独自性のある開催地、集客の優れた開催地を表彰。(小松・小林・熊本・知立)
- ・プレーオフは、関東都県協会の方々のご協力を得て、集客増に繋がった。

### 2)ハンドボールの普及活動への積極的に参加

- ・各地での講習会へのチームの派遣。
- ・日本リーグ開催に合わせた開催地での講習会への積極的参加。
- ・男子チャレンジディビジョンの立ち上げ。  
(セントラル自動車・FOG・トヨタ自動車・Honda・大同大学・HC 岐阜・八光自動車・HC MKA・高松大学・徳山クラブ・HC 山口)
- ・女子チャレンジリーグは、JHL 女子強化キャンプに参加 (香川銀行・HC 高山)

### 3)リーグ戦のレベルアップと東アジア諸国との交流を通じ国際交流

- ・JHL コーチ研修会の開催と JHL レフェリー講習会の開催に於いて、チーム、レフェリーの統一見解を図った。
- ・第 6 回東アジアクラブ選手権 (中国・蘇州、常州) へ大同特殊鋼・オムロンが参加。  
(大同特殊鋼 2 位、オムロン 3 位)
- ・ヒロシマ国際に女子 JHL 選抜が参加。

### 4)日本リーグ中期ビジョンを具体化

- ・男子チャレンジディビジョンのスタート。
- ・クラブチームの育成支援 (琉球コラソン・三重バイオレットアイリス)。
- ・22 年度組織の中に、クラブ育成委員会を立ち上げのための準備完了。

### 5)メディア対策を更に充実させる

- ・コーチ研修会でのメディアトレーニング。
- ・リーグ開幕前・プレーオフ前に記者発表を実施。
- ・各チームが、地元 TV、ケーブル TV、地方紙の露出が増えた。
- ・プレーオフは BS12 で生放送を行った。

## 6)各事業

6月	コーチ研修会 レフェリー研修会
7月	ヒロシマ国際へ女子 JHL 選抜参加 開催地責任者・GM 合同研修会
9月	リーグ戦開幕
10月	男子チャレンジディビジョン開幕
11月	女子チャレンジリーグ
2月	男子強化キャンプ
3月	プレーオフ

## 7)競技間の連携

- ・日本トップリーグ連携機構主催の審判研修会へ JHL レフェリー5名参加。
- ・日本トップリーグ連携機構主催の若手研修会へ各チームより合計 12名参加。

## 1 1. 総務に関する事業

### 1) 定例の諸会議の開催について、開催場所の選択や人員・規模等を勘案し会議費や日程の効率的運営の推進を図った。

- (1)評議員会 6月13日(東京) 2月13日(東京)
- (2)理事会 6月13日(東京) 11月14日(東京) 2月20日(東京)
- (3)常務理事会 4月11日(東京) 5月16日(東京) 7月11日(東京) 9月12日(東京)  
10月10日(東京) 12月12日(東京) 1月9日(東京) 3月13日(東京)
- (4)全国理事長会議

第1回:10月1日、新潟県柏崎市で新潟国体競技開始前日に開催。日本協会の現状などについて日本協会専務理事より説明が行われた。また、参加者より、ご意見・要望等を聞き回答した。同会終了後会場を変え懇親会が行われた。

第2回:2月21日、例年行っている事務取扱責任者会議を理事長会議に変更し行われた。

### 2) 環境委員会

- ・スポーツと環境保全問題について、主要大会において会場にポスターやバナーの掲示をし、環境問題の啓発に努めた
- ・全日本総合など9大会に JOC 環境ポスターの掲載をした
- ・クールビズの実施
- ・チーム・マイナス6%より配信される News Leter を都道府県協会・連盟関係者にその都度転送し、啓発に努めた
- ・「チャレンジ25キャンペーン」に参加表明し、地球温暖化防止に努めることを宣言した

### 3) 地方協会へ情報伝達の迅速化に努め、メールによる発信回数を増やした。

4) 事務局の業務改善を図った。

## 12. 「がんばれハンドボール10万人会」サポート会に関する事業

### 1) 平成21年度サポート会員総数（平成22年3月31日現在）

特別会員	4名
グラント会員	262名
ファミリー会員	107名
ジュニア会員	28名
都道府県ファミリー会員	292名
都道府県グループ会員	5,186名
総数	5,879名

（前年より55名増）

### 2) 推進活動

- (1)都道府県ファミリー会員・グループ会員入会の促進
- (2)大会会場における会員の優先席設定
- (3)20万人会への名称変更並びに規約改正

### 3) 事務局

- (1)毎月の入会・更新作業
- (2)打合会の開催・事務処理

## 13. マーケティングに関する事業

- 1) オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保・拡大  
平成21年度 5社（内新規 1社）
- 2) 協賛企業の確保・拡大  
目標協賛金2500万円に対し1630万円(寄付金を含めると2710万円)  
平成21年度 25社（内新規5社）
- 3) スポンサー感謝の集いを開催した。  
12月1日に女子世界選手権壮行会時に行った（86名参加）
- 4) イベント企画（バリューアップ活動）
  - (1)小学館とのコラボレーション(全日本総合)
  - (2)テレビ放映「日本代表ドキュメンタリー」wowow(1/6,2/25)
  - (3)ジャパンカップ企画：TV朝日
- 5)オリジナルグッズ(モバイルクリーナー)3種を販売した。